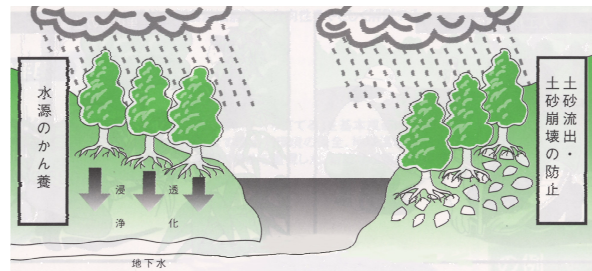


(4) 災害の防止、避難路の確保のための課題

○ 災害を防止・軽減する緑の保全

「やま」や「おか」に広がる樹林地の荒廃や「まち」における斜面緑地の減少、また「さと」に広がる水田等の農地の荒廃は、災害の拡大が懸念されるため、樹林地や斜面緑地による土砂災害の防止や水田等による水害の軽減など、緑の役割が機能するよう災害対策に必要な緑の保全が課題となります。



緑による防災機能（資料：林業白書）

○ 避難路を確保する緑の創出

中心市街地は、近年の人口集中により高密度が進み、都市災害に対する脆弱性が心配されています。特に、広域避難場所へ至るまでの安全な都市空間を確保することが重要であると考えられます。

市民アンケートにおいても、広域避難場所より、そこに至るまでの避難経路の防災性の向上を求めている傾向が得られています。

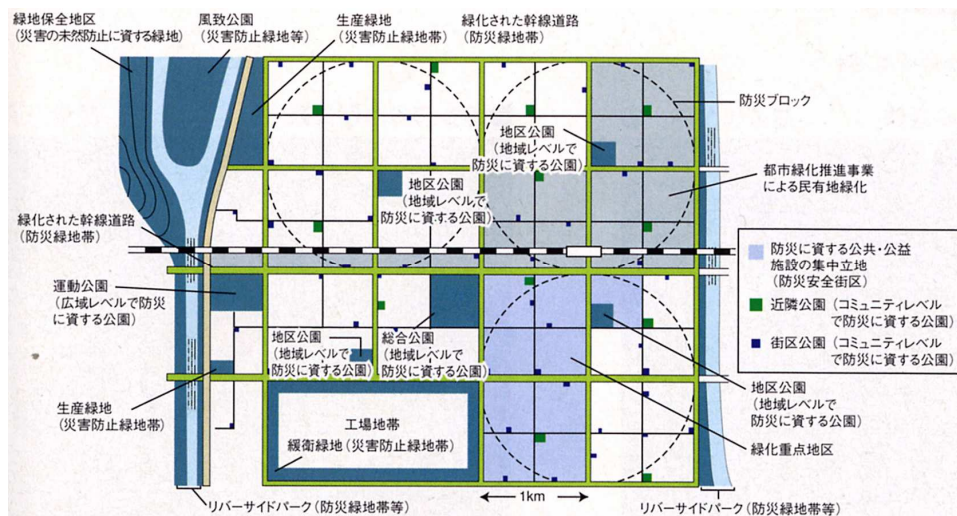


街路樹による避難路の確保

（資料：緑の基本計画ハンドブック）

このことから、一次避難地となる公園緑地の充実を図ることや、また主要道路では、街路樹等の計画的整備を進めるとともに、区画道路等の接道部分の生垣化など、避難路となる道路の防災性を向上させる緑の創出が課題となります。

さらに、市街地を流れる河川・水路は、緊急時の生活用水や防火用水となるため、避難地・避難路の体系に組み入れていくことも都市防災空間形成のための課題となります。



防災に資する都市のモデル

（資料：緑の基本計画ハンドブック）